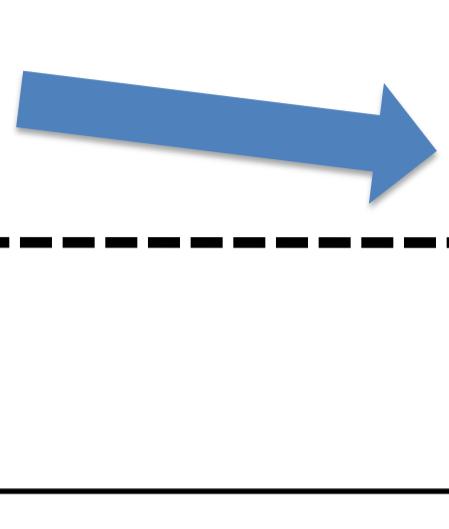
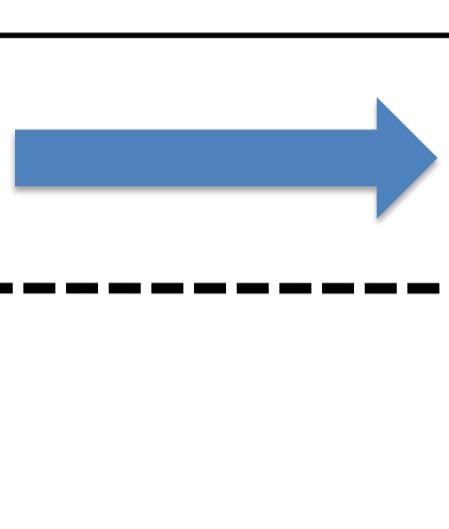
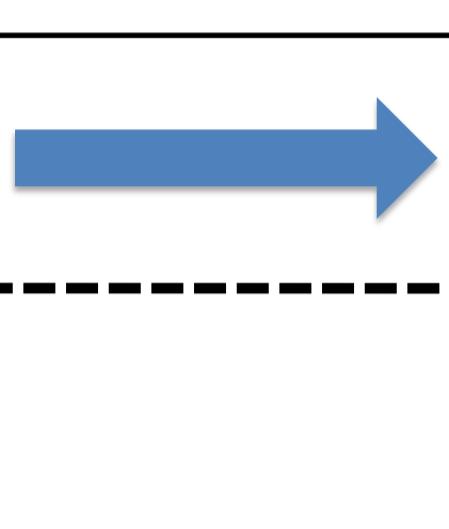
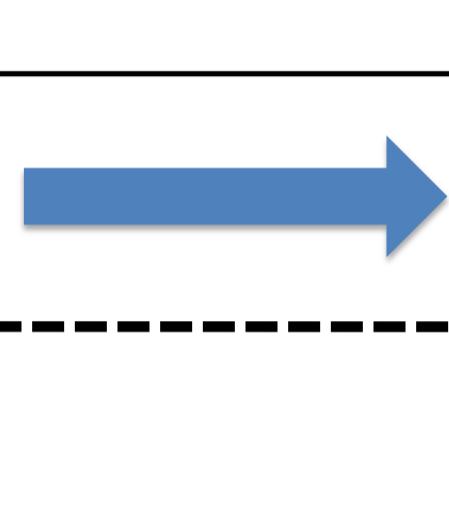
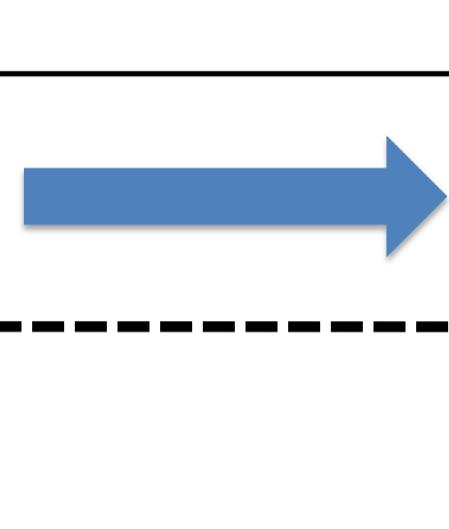
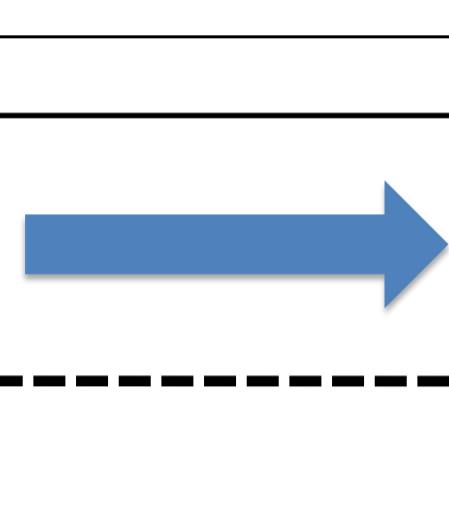
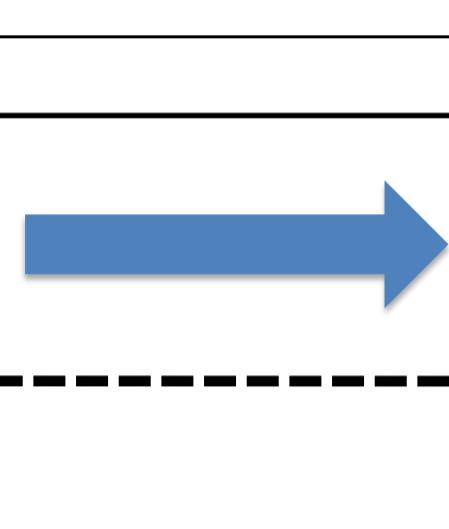
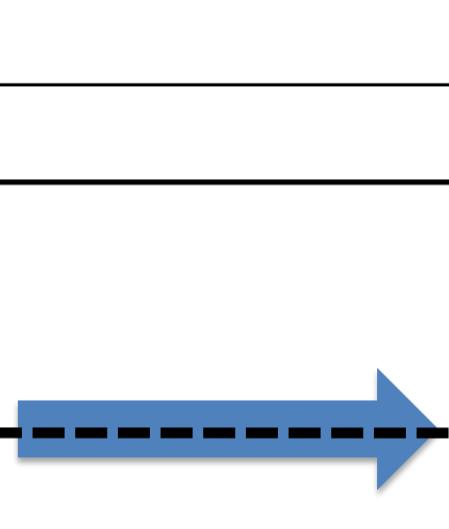
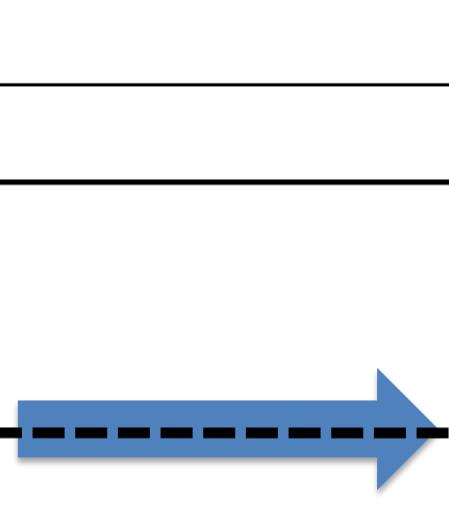
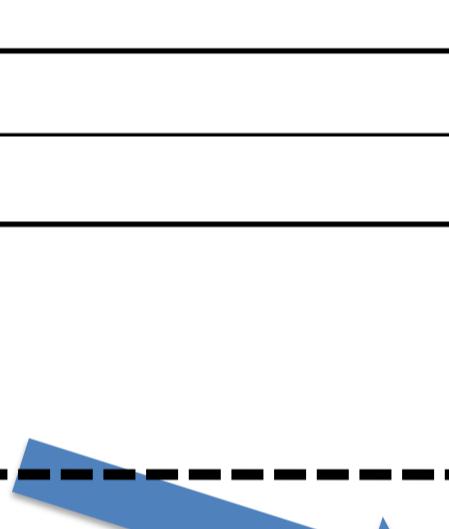
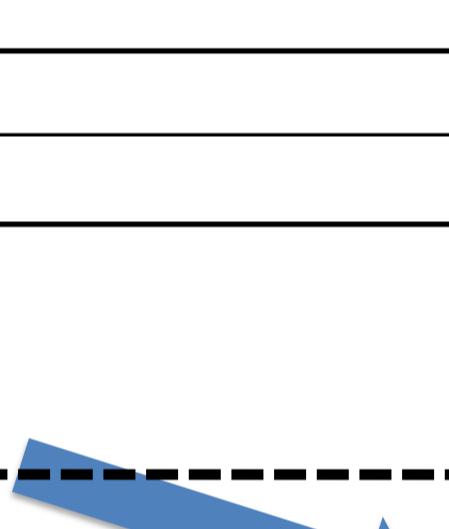
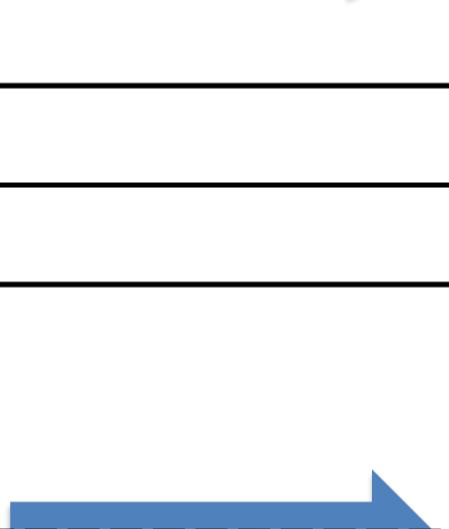
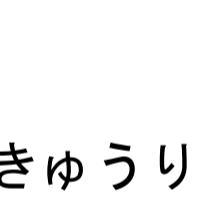
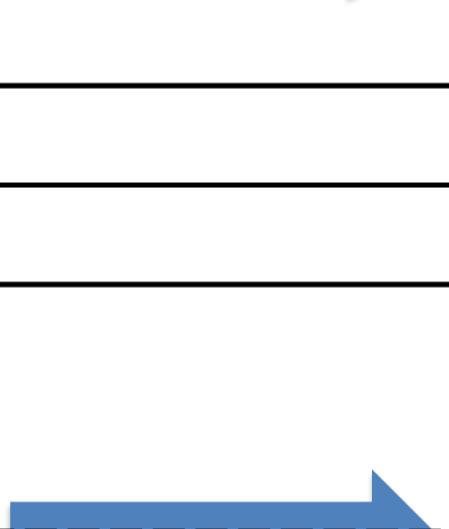
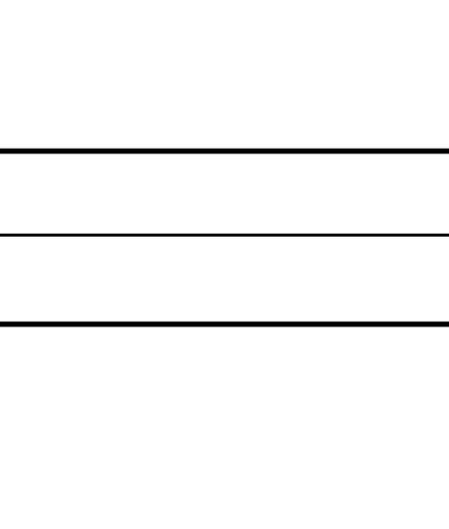
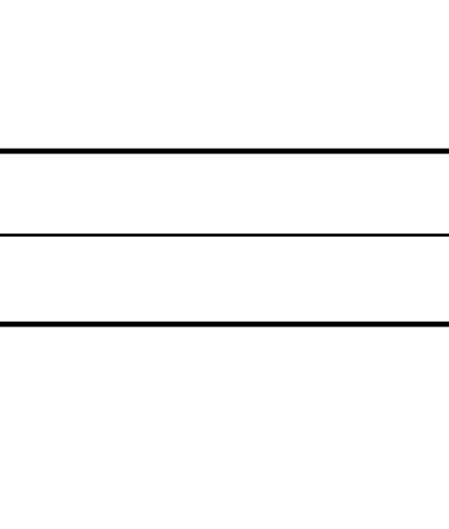
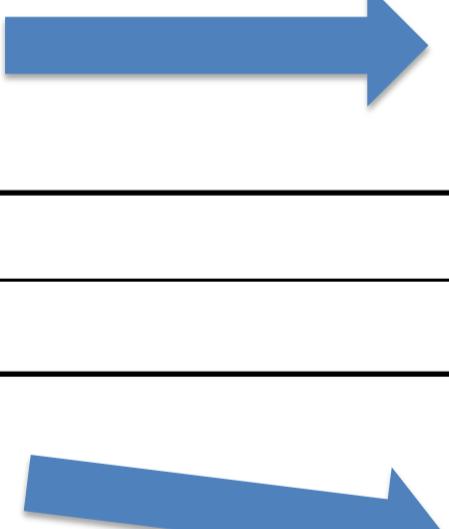
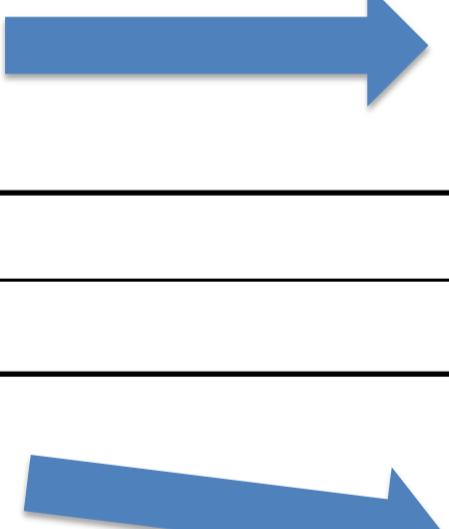
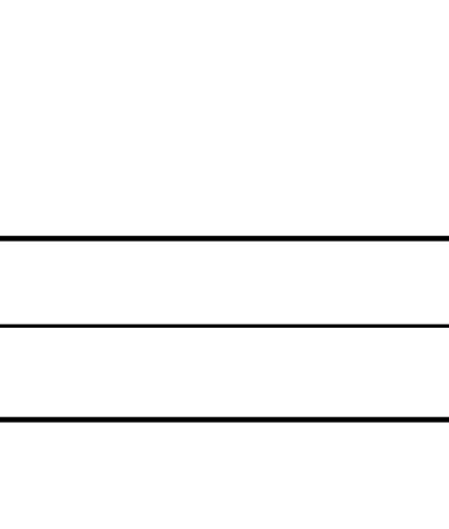
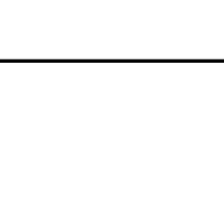
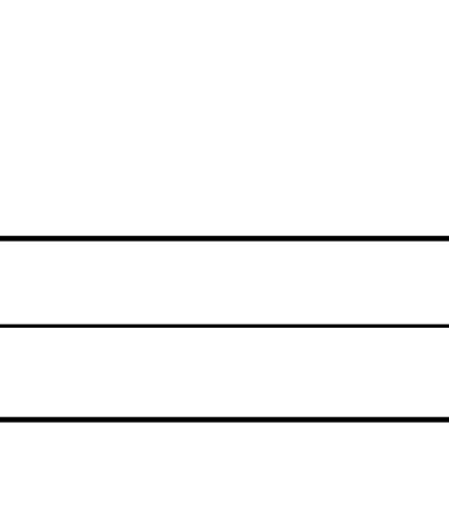
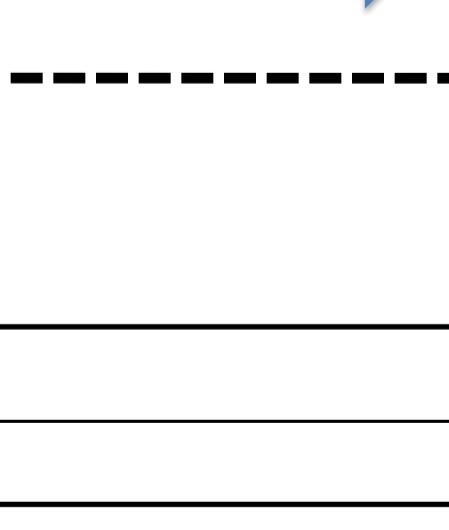
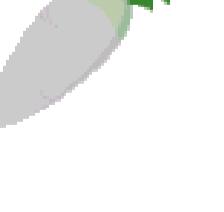
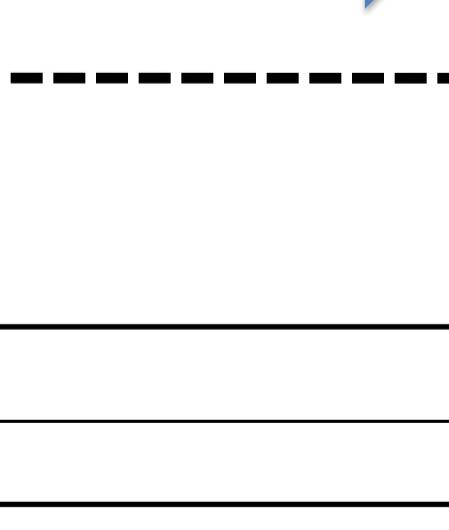
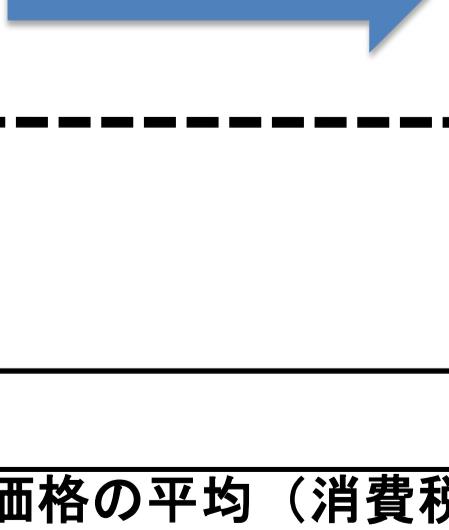


## 野菜の需給・価格動向レポート（平成30年3月12日版）

## 1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類	2月の価格情報			3月 2月下旬の関東 及び近畿ブロックの 入荷量 ( ) 内は、本年と 過去6カ年平均値 との比率	3月の主産地	生育及び価格の3月下旬までの見通し				
	指定野菜の関東・近畿 ブロック別平均販売価額					「図の見方」	見通しの価格水準			
	上旬	中旬	下旬			平均価格	現時点の価格水準	平均価格		
葉茎菜類	キャベツ 	96.86	206 (213%)	233 (241%)	245 (253%)	96.86 + 4,868t (62%)	愛知(59), 神奈川(20)	 ↓	愛知産は、1月以降の低温による生育遅れに加え、前倒し出荷で小玉の割合が多いことから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。神奈川産は、昨秋の天候不順や12月以降の低温や干ばつ傾向による生育遅れにより、小玉の出荷割合が多いことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 愛知産及び神奈川産の出荷は平年よりやや少なめ又は少なめと見込まれるもの、春系の増加が見込まれることから、現在平均を上回っている価格は平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
		92.10	201 (218%)	235 (255%)	244 (265%)	92.10 + 1,619t (53%)	愛知(63), 大阪(9), 兵庫(9)	 ↓	北海道産は、貯蔵ものの計画的な出荷となっており、作柄も平年並み以上であったことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
	たまねぎ 	83.77	102 (122%)	105 (126%)	104 (125%)	83.77 + 5,315t (87%)	北海道(75), 静岡(9)	 ↓	千葉産は、干ばつ及び低温による影響で春作の生育遅れや細ものが多く見られることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。埼玉産は、昨秋の天候不順による影響で下級品の割合が多いものの春物の出荷が始まることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	
		83.77	101 (120%)	99 (118%)	99 (119%)	83.77 + 2,085t (86%)	北海道(72), 長崎(14), 兵庫(9)	 ↓	埼玉産の出荷は平年並みと見込まれるもの、千葉産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
	ねぎ (関東は白ねぎ、 近畿は青ねぎ) 	127.15	387 (305%)	381 (299%)	415 (327%)	127.15 + 1,025t (71%)	千葉(47), 埼玉(26)	 ↓	茨城産は、低温や1月下旬の降雪により、生育遅れがみられ、春作の本格出荷は3月下旬と見込まれることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。兵庫産は、昨秋の天候不順や低温の影響で小玉傾向となっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。	
		473.04	941 (199%)	973 (206%)	1023 (216%)	473.04 + 71t (48%)	徳島(27), 三重(16), 奈良(15), 香川(12), 高知(10)	 ↓	茨城産及び兵庫産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
	はくさい 	64.18	142 (221%)	135 (211%)	161 (251%)	64.18 + 2,769t (82%)	茨城(61), 兵庫(22)	 ↓	茨城産は、生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。群馬産は、露地作が順調な生育となっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、昨秋の台風後に追い巻きした豪雨からの出荷が順調なことから、現在やや少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。	
		68.70	161 (234%)	174 (253%)	181 (264%)	68.70 + 1,605t (90%)	長崎(67), 熊本(11)	 ↓	群馬産、茨城産及び千葉産の出荷が平年並み又は平年並みに回復すると見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。	
	ほうれんそう 	338.43	729 (216%)	589 (174%)	500 (148%)	338.43 + 740t (93%)	茨城(35), 群馬(26), 千葉(14)	 ↓	茨城産は、生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。群馬産は、露地作が順調な生育となっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、昨秋の台風後に追い巻きした豪雨からの出荷が順調なことから、現在やや少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。	
		375.38	776 (207%)	716 (191%)	536 (143%)	375.38 + 234t (76%)	福岡(38), 徳島(34), 茨城(11)	 ↓	群馬産、茨城産及び千葉産の出荷が平年並み又は平年並みに回復すると見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。	
	レタス (結球) 	233.85	346 (148%)	330 (141%)	271 (116%)	189.66 + 1,926t (76%)	茨城(51), 兵庫(9), 静岡(7)	 ↓	茨城産は、11月以降の低温により、生育遅れがみられるものの、気温の上昇により肥大順調で、遅れていた2月の出荷がずれこんでいることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。兵庫産及び静岡産は、2月の低温、降雪による肥大遅れがみられるものの、気温の上昇とともに出荷増と見込まれることから、現在やや少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。	
		226.75	349 (154%)	341 (151%)	293 (129%)	193.43 + 464t (69%)	兵庫(34), 茨城(27), 長崎(16), 徳島(13)	 ↓	茨城産の出荷が平年並みと見込まれ、兵庫産及び静岡産の出荷が平年並みに回復すると見込まれることから、現在平均並みの価格は、平均を下回って推移する見込み。	
果菜類	きゅうり 	370.98	398 (107%)	323 (87%)	292 (79%)	266.63 + 2,236t (87%)	群馬(23), 宮崎(19), 千葉(15), 埼玉(15)	 ↓	群馬産及び宮崎産は、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、2月以降の好天及び気温の上昇で、生育は概ね順調であることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。	
		350.33	385 (110%)	318 (91%)	290 (83%)	254.91 + 845t (98%)	宮崎(41), 高知(21), 徳島(17)	 ↓	群馬産、宮崎産及び千葉産の出荷が平年並み又は平年より多めと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。	
	トマト (大玉) 	349.23	313 (90%)	343 (98%)	346 (99%)	356.77 + 2,163t (86%)	熊本(26), 栃木(26), 愛知(12)	 ↓	熊本産及び愛知産は、低温により着色遅れがみられるものの、生育も概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は、低温により生育遅れがみられるものの、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	
		326.61	295 (90%)	329 (101%)	330 (101%)	337.87 + 832t (96%)	熊本(76)	 ↓	熊本産、栃木産及び愛知産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。	
	なす 	389.03	452 (116%)	450 (116%)	455 (117%)	347.77 + 584t (78%)	高知(59), 福岡(20)	 ↓	高知産は、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。福岡産は、3月の気温の上昇により、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	
		397.74	436 (110%)	432 (109%)	437 (110%)	330.95 + 249t (81%)	高知(43), 熊本(21), 福岡(19), 岡山(8)	 ↓	高知産及び福岡産の出荷が平年並みの出荷と見込まれ、今後高知産の出荷が徐々に増加する見込みであることから、現在平均を上回っている価格は平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
	ピーマン 	578.80	743 (128%)	731 (126%)	689 (119%)	578.80 + 503t (78%)	茨城(36), 宮崎(31), 高知(17)	 ↓	茨城産及び高知産は、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。宮崎産は、気温の上昇で弱かった草勢が回復していることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	
		565.30	711 (126%)	698 (123%)	632 (112%)	565.30 + 256t (92%)	宮崎(44), 高知(25), 鹿児島(9)	 ↓	茨城産、宮崎産及び高知産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。	
根菜類	だいこん 	79.03	151 (191%)	162 (205%)	161 (203%)	79.03 + 2,790t (64%)	神奈川(55), 千葉(38)	 ↓	神奈川産は、昨秋の天候不順や1月以降の低温により、依然として生育遅れがみられるうことから、引き続き平年よりやや少なめの出荷のまま、月末には出荷終了の見込み。千葉産は、台風後播種したトンネル作が出荷されることから、現在少なめの出荷は、今後は平年よりやや少なめの出荷の見込み。	
		80.47	145 (181%)	157 (195%)	146 (181%)	80.47 + 1,363t (65%)	鹿児島(38), 長崎(37), 徳島(15)	 ↓	千葉産の出荷が平年より少なめからやや少なめになると見込まれるもの、神奈川産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
	にんじん 	111.16	168 (151%)	167 (150%)	163 (146%)	111.16 + 2,212t (84%)	千葉(52), 徳島(32)	 ↓	千葉産は、昨秋の天候不順により肥大不足で、細ものの出荷となっていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。徳島産は、昨秋からの播種期の天候不順により、肥大遅れがみられることがある、平年よりやや少なめの出荷の見込み。	
		109.97	178 (162%)	186 (170%)	188 (171%)	109.97 + 528t (70%)	鹿児島(49), 徳島(33), 愛知(11)	 ↓	千葉産及び徳島産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	

注：1 平均価格は、過去6カ年（平成20～25年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。

2 旬別平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。

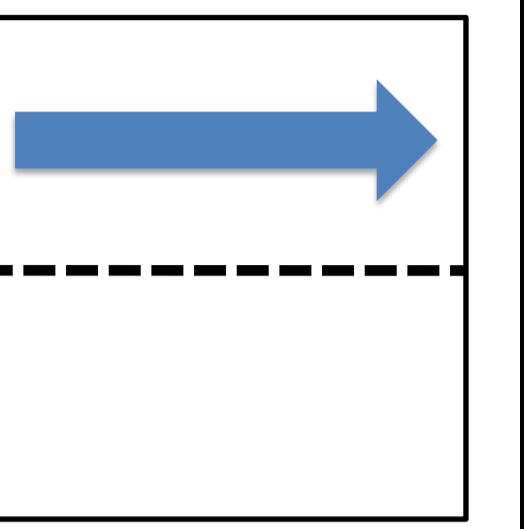
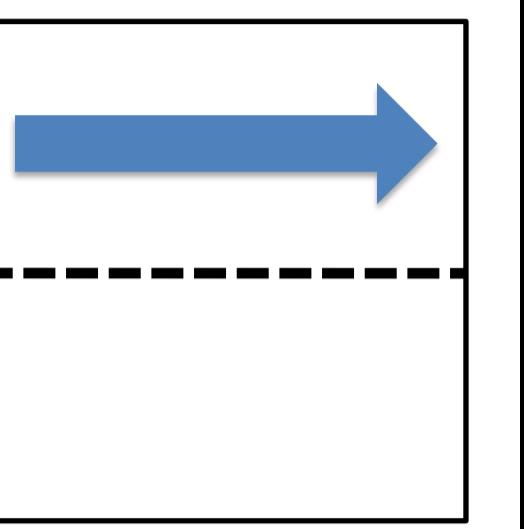
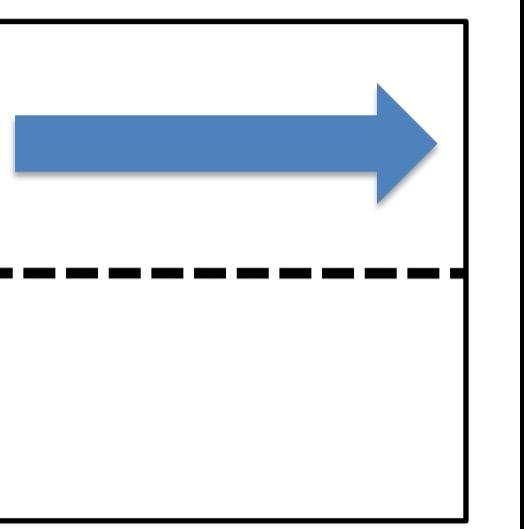
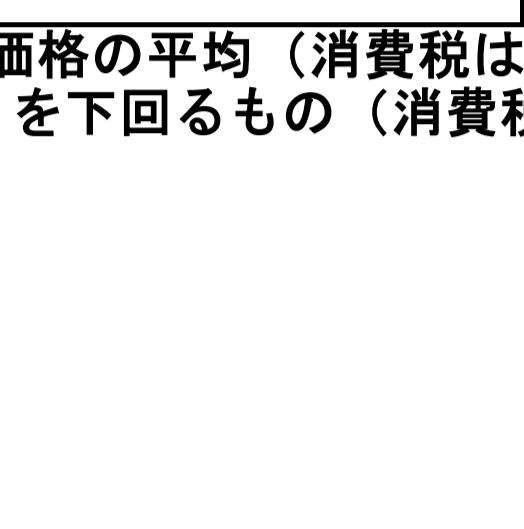
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。

4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成28年実績である。

5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聽き取りをもとに機構が作成したもの。

## 1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	2月の価格情報			(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	3月 2月下旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ( )内は、本年と過去3カ年平均値との比率	3月の主産地	生育及び価格の3月下旬までの見通し					
	指定野菜の関東・近畿 ブロック別平均販売価額						「図の見方」 平均価格					
	上旬	中旬	下旬				現時点の価格水準	平均価格				
いも類	さといも	228.85 (124%)	285 (131%)	300 (118%)	269 (59%)	228.85 + 95t	埼玉(44), 千葉(37)		埼玉産は、貯蔵ものからの計画的な出荷となっており、昨秋の天候不順により小玉傾向となっていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、貯蔵ものからの計画的な出荷となっており、作付面積の減少に加え、定植時の干ばつ傾向により肥大が進まず、小玉傾向となっていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。			
		219.65 (122%)	267 (134%)	295 (104%)	228 (153%)	219.65 + 70t	愛媛(64), 中国(11)		埼玉産及び千葉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。			
	ばれいしょ	96.99 (114%)	111 (121%)	117 (119%)	116 (98%)	96.99 + 2,568t	北海道(68), 鹿児島(29)		北海道産は、貯蔵ものの計画的な出荷となっており、L及びMサイズ中心の出荷となっているものの、作柄は良好であったことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。鹿児島産は、肥大遅れにより、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。			
		96.99 (110%)	106 (120%)	116 (116%)	112 (120%)	96.99 + 1,337t	北海道(72), 長崎(14), 兵庫(9)		北海道産の出荷は平年並みと見込まれるもの、鹿児島産の出荷が少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。			

注：1 平均価格は、過去6カ年（平成20～25年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。

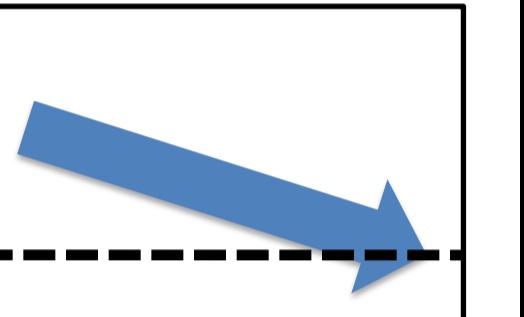
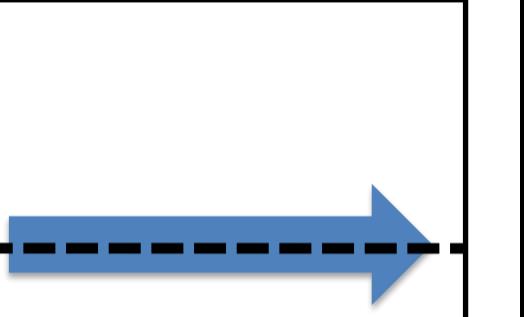
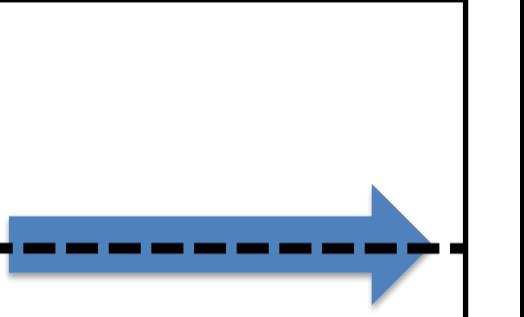
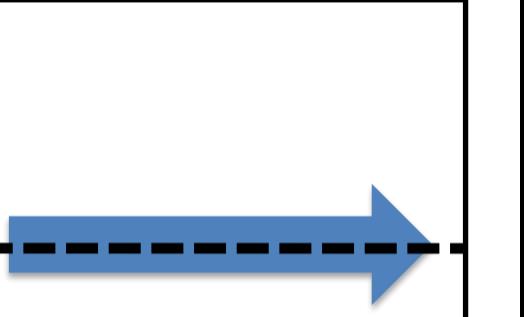
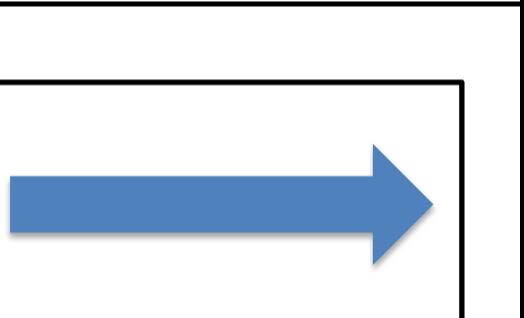
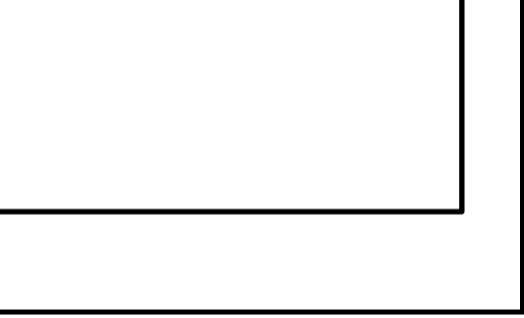
2 別々平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。

3 単位は円/k g、上段は関東、下段は近畿ブロック。

4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成28年実績である。

5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したもの。

## 1 主要野菜の生産出荷状況（特定野菜）

種類	2月の価格情報			(参考)過去5カ年平均価格	3月 2月下旬の東京都・大阪市の旬別価格 ( )内は、本年と過去5カ年平均値との比率	3月の主産地	生育及び価格の3月下旬までの見通し					
	東京都・大阪市の旬別価格						「図の見方」 平均価格					
	上旬	中旬	下旬				現時点の価格水準	平均価格				
洋菜類	ブロッコリー	274.14 (249%)	682 (215%)	590 (172%)	471 (120%)	248.94 + 522t	愛知(32), 香川(30), 米国(9)		愛知産は、作付面積の増加に加え、最近の好天により生育が回復傾向にあることから、現在少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。香川産は、低温による生育遅れがみられるものの、出荷のピークを迎える時期であることから、現在少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。			
		367.08 (199%)	732 (170%)	624 (129%)	474 (120%)	336.11 + 158t	徳島(36), 香川(13), 熊本(12), 米国(9)		愛知産及び香川産の出荷が平年並みに回復すると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、今後は平均並みで推移する見込み。			
葉茎菜類	こまつな	345.29 (212%)	733 (153%)	530 (130%)	450 (98%)	282.42 + 197t	茨城(48), 埼玉(27)		茨城産は、気温の上昇により生育が概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、3月の好天により、遅れていた生育が回復傾向にあることから、現在少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。			
		358.21 (193%)	692 (154%)	551 (127%)	455 (127%)	252.78 + 73t	福岡(80)		茨城産及び埼玉産の出荷が平年並み又は平年並みに回復すると見込まれることから、平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。			
根菜類	かぶ	141.29 (146%)	206 (152%)	215 (141%)	199 (141%)	140.95 + 223t	千葉(91)		千葉産は、肥大遅れがみられるごとに加え、昨秋の台風とその後の長雨により播種できなかったほ場があることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。			
		140.01 (149%)	209 (165%)	231 (178%)	249 (178%)	158.05 + 24t	徳島(54), 石川(16), 千葉(15)		千葉産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。			

注：1 平均価格は、過去5カ年（平成25～29年）の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。

2 別々価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/k gである。

3 別々価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。

4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成28年実績である。

## 2 野菜の輸出入動向 一 野菜の輸出入数量と主な生鮮野菜の輸出入について 一

○輸入について  
貿易統計によると、平成29年1月の生鮮野菜の輸入量は、8万9千トン（前年同月比131%）であった。また、輸入量の多い加工野菜は、15万トン（同93%）であり、野菜全体では、23万9千トン（同104%）と前年よりやや増加した。

このうち、中国産の輸入量は合計で13万8千トン（同111%）と、輸入量の58%を占めた。

これは、昨秋の長雨や台風、その後の低温、干ばつにより多くの品目が高値水準で推移したことから、業務用で海外産を仕入れる動きが強まったと考えられる。

○輸出について  
1月の輸出量は、野菜全体では2102トンと、前年同月を大幅に上回った（前年同月比150%）。生鮮野菜が1029トン（同132%）、加工野菜が1073トン（同173%）と、生鮮及び加工野菜とも前年同月を大幅に上回った。

なお、輸出量が平成29年11月から3カ月前年を大幅に上回ったながいものは、国産の作柄が良く、太物が多いなど品質の良いことや、輸出先国の季節需要による増加とみられる。

### 野菜の輸入数量

#### 野菜全体の輸入量(平成30年1月)

(単位:トン、%)

区分	平成28年	平成29年	平成30年1月
	前年比	前年比	前年同月比
生鮮野菜	862,416	97	89,006
加工野菜	1,768,893	99	149,788
野菜合計	2,631,309	99	104
うち中国産野菜合計	1,366,480	97	111
中国産シェア	52	52	58

### 野菜の輸出数量

#### 野菜全体の輸出量(平成30年1月)

(単位:トン、%)

区分	平成28年	平成29年	平成30年1月
	前年比	前年比	前年同月比
生鮮野菜	31,867	139	1,029
加工野菜	11,032	117	1,073
野菜合計	42,899	132	1,102

### 主な生鮮野菜の輸出先(平成30年1月)

(単位:トン、%)

輸出合計	1位		2位	3位
前年比	国名	数量	国名	数量
ながいも	428	175	台湾	243
いちご	216	143	香港	170
きのこ(その他、はらたけ属以外)	111	93	台湾	59

### 同(平成29年1月)

(単位:トン)

輸出合計	1位	2位	3位
国名	数量	国名	数量

<tbl\_r cells="4" ix="1" maxcspan="1" maxrspan="1" used